

競技方法 <予選会>

実行委員 日本ボッチャ協会

<実施について>

<実施場所>

各学校のクラブ活動等で利用している体育館や学校施設とする

<エントリー人数>

各校1チーム（3名+控え選手1名）とする

<参加に対し必要なもの>

ボッチャにかかる道具（ボール、審判用具）

ボッチャコート ビデオカメラ タイマー

<実施方法について>

- ① 参加校は会場とする体育館にボッチャコートを作成する。
- ② 事前に作成している課題（4エンド分）を受け取り確認する。
（12月1日 18：00に実行委員会より配信）
- ③ 参加メンバーは 2, 4, 6 ボックスに入り、青ボールを2球ずつ持つ。
- ④ 審判（教員）はジャックボールと赤ボールを1エンド目の課題位置に正確に配置する。
- ⑤ 1 エンド目スタート（手持ちの青ボールを順に投球し、何点獲得できたかを記録する）。記録は動画撮影によるものとし、できるだけコートの全体像が確認できるような構図とする。
（開始時の課題位置が分かるようにジャックボールの真上からの映像を最初に入れる。ゲーム中はエンドライン側からの撮影が望ましい）



開始時の課題位置が分かるようにジャックボールの真上からの映像を最初に入れる。

- ⑥ 動画には原則としてタイマーと審判が写り込んでいることとする。
次投球者は審判 が提示するパドルを確認してから投球動作に入ることとする。
- ⑦ 1エンドの持ち時間は5分とし、エンド中はタイマーを止めない。
エンド途中で何 らかのペナルティがあった場合、そのエンドは無効とする。
- ⑧ 6球投げ終わった時点で、得点を確認する。その際のカメラの位置はできるだけ、 ボールの真上から撮影するようにする。
- ⑨ 2～4エンド目④～⑧の手順を繰り返す。
※期間内であれば、何度チャレンジしても良いが、選手に過度な負担とならないように配慮する。エンドの途中での選手交代や、やり直しなどは認めない。選手交代 はエンド間に一度のみ認められる。
スローイングボックスの交代は認めない。

ファール（無効エンド）の例

- 選手がスローイングボックスの外から投球している
 - 一方向からの撮影のため、正確な判断は難しいのですが、第三者が見た際に明らかに外出しているであろうと判断される場合はファールとします。複数の実行委員の目で確認し、全員が×と判断した場合はファールと判断します。
- ランプ使用選手のランプスイングが見られない
 - チーム内の選手がコートに入り、ボールの確認などを行った場合、その選手がボックスに戻った後に、チーム内のボールを持っているランプ選手は必ずスイングをする必要があります。
- 選手交代を複数回行った（ボックスの移動を行った）
 - 選手交代は試合を通して1度のみです。エンド途中の交代やボックスの移動はできません

など



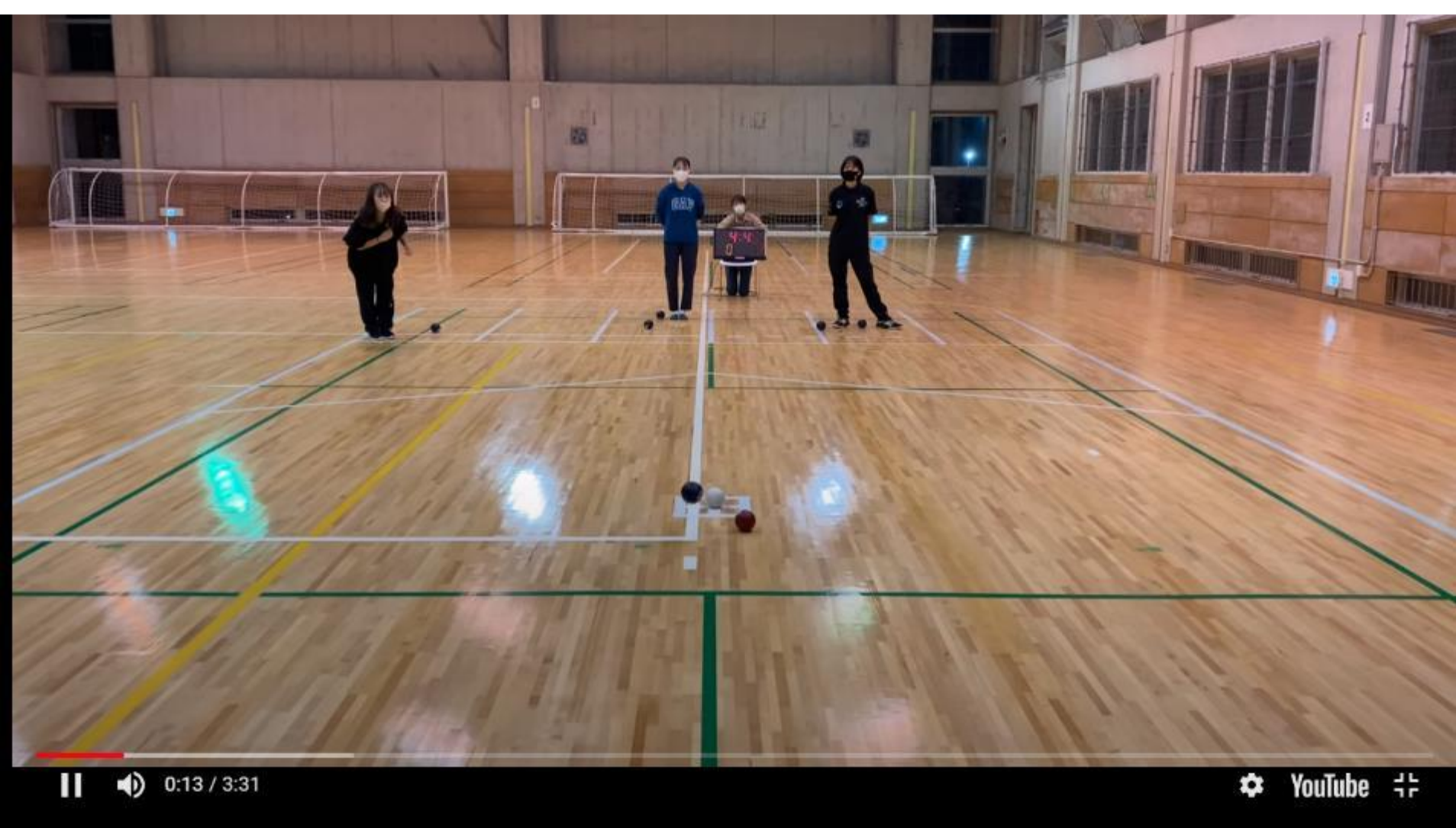
▶ ⏸ 🔊 1:16 / 3:54

スクロールして詳細を表示



動画には原則としてタイマーと審判が写り込んでいることとする。次投球者は審判が提示するパドルを確認してから投球動作に入ることとする。

タイマーが隠れてます・・・



動画には原則としてタイマーと審判が写り込んでいることとする。次投球者は審判が提示するパドルを確認してから投球動作に入ることとする。

審判が外れてます・・・



順天堂大2エンド



リンクをコピー



その他の動画



2:49 / 3:31



YouTube



カメラの位置はできるだけ、ボールの真上から撮影するようにする

- ⑩ 大会期間（12/1～12/10）終了までにエンドごとの動画データを指定のクラウドにアップロードする。その際のファイル名は「学校名（チーム名）○エンド」とする。また、動画は1球目の投球前から、6球目投球後、得点確認まで編集等を行わずに連続して撮影したものに限り。
- ⑪ 動画データとは別に共通の記録用紙に各エンドの得点、合計得点を入力したものを、実行委員会のメールアドレスに添付ファイルにて送信する。
- ⑫ 動画と得点記録を確認し、総合順位を決める。
- ⑬ 上位2～3校は3月5日（土）に決勝大会を東京都港区スポーツセンターにて開催する。
（詳細は後日）

〈実施方法について〉

- ① 対戦方式
- ② ルール ボッチャ甲子園ルールを適用
- ③ 港区スポーツセンターで実施
- ④ 決勝戦はZOOMで参加できる応援方式
大型ビジョン上に参加していただき、決勝戦を応援。
ZOOMのアカウントは学校代表者に送付。
各校代表者は今大会出場選手にアカウントを配布。
- ⑤ 報道関係者も取材あり
- ⑥ 大会の様子は、YoutubeにてLIVE配信
- ⑦ 上位チームにはメダルを送付